

Eureka X

六年制通信 No.16 令和4年9月1日(木)号

規矩準繩

元気でしたか。夏休みも終わり、二学期が始まります。もう何回も実感しましたが、私たち教員は小学校に入って以来ずっと夏休みを経験しているのですね。私なんか半世紀以上ですよ。校舎とか教室とか、学ぶか教えるかの違いになりましたが毎日通うのは学校です。学校以外は知らない、とも言えますけどね。生徒と先生は黒板を前に勉強するか黒板を背にして教えるかの違いと言いますが、最近では教えることと学ぶことは同じではないかとも思っています。毎日勉強しているという点で、私もいつまでも君たちと同じ生徒なのだと思います。一緒に頑張りましょうね。

さて、一学期の終業式に話したことをユリイカに書くと言いましたから、少し補足を加えながら書こうと思います。

このところ、若い頃のように何か新しいことにわくわくしたり、初めての場面に緊張したりしなくなりました。涙もろくなった気はしますけどね。大体のニュースには全く驚かなくなっていて、いかにも感性が鈍くなってしまったと思っていましたが、さすがに7月8日の安倍元総理の事件は驚きました。第一報を知った時には本当に「嘘だろ!」と声が出ましたからね。同時に、あの犯人は一体どんな思考回路を経て殺人を選択、実行するに至ったのか、戦慄の思いでテレビに映る無表情で不気味な姿を観ていました。気持ちの悪い本当に不愉快な姿でした。来世を信じる私としては、あの犯人がもう一度人間に生まれ変われるとは到底思えません。

私たち教員は政治的な発言を控えています。特に18歳で選挙権を持つようになった今、君たちに影響を与えないようにしています。君たちは、私の口から〇〇政党がどうしたこうしたとか聞いたことはないはずです。そもそも国会議員にほとんど興味はないし。しかし、今日は国会中継を観ていて非常に感動した発言があったので紹介します。その人の政治的主張に対する評価ではありません、念のため。いつだったかはっきりしませんが、よほど暇だったのでしょう、たまたま国会中継を観ていました。いつもながらの劣悪なる、誰とも何党とも言いませんが、あの貧困なる語彙力と下品な話し方および顔つき、ユーモアのかけらもない質疑応答を聞いていると、やはりテレビを消したくなったのですが、そのとき、中でも一番下品ではないかと思われるのがこんな質問をしました。「人間にとって一番大事なのは、私は空気だと思いますが、では二番目に大切なものは何だと思いますか、麻生大臣、お答えください」と。あまりにアホな質問なのでよく覚えています。しかし、この時の麻生財務大臣の答えを君たちに紹介したいのです。彼はこう答えました。「この手のわけのわからん質問が来たときは、

私の答えはいつも同じですが…」と質問者に嫌味を言ったあとに続けて「私は人間にとって大切なことは、朝は希望をもって目覚め、昼は懸命に働き、夜は感謝とともに眠る、そういうことだと思っています」と言いました。後から考えると「昼は勤勉に」の方がいいのかもしれないと思いましたが、あのとき私の耳に残ったのは「懸命に」です。私は非常に感動して姿勢を正しました。そしてすぐにテレビを消しました。次に来るであろう質問者の下品な顔つきと話し方で自分の感動を消したくなかったからです。麻生大臣の発言を自分に照らし合わせて、私は非常に恥ずかしくなりました。そしていつか君たちに紹介しようと思いましたが、ただ現役の政治家の発言なので躊躇していたのです。私はあれ以来「朝は希望をもって目覚め、昼は懸命に働き、夜は感謝とともに眠る」を、お前はちゃんとできているのかと、繰り返し自問自答しています。

人間には生きる上で行動の規範となるものがが必要です。人の道を踏み外すことなく、私（わたくし）を鍛え公（おおやけ）に尽くすためには、他人はどうあれ自分はこういうことはしない、あるいは他人はどうあれ自分はこうする、そういった自らの行動を律するものがが必要です。律するものとは、はっきり言えば規範となる、生きていく上でいつも自分に言い聞かせている「言葉」のことです。きっと安倍元総理を襲った犯人は「朝は希望をもって目覚め、昼は懸命に働き、夜は感謝とともに眠る」という言葉も知らず、そういう生き方とは無縁だったに違いないと思います。

そういう自分の行動の規範となるものを「規矩」、正しくは「規矩準繩（きくじゅんじょう）」と言います。終業式では漢字の説明もしましたね。「規」は規則の規、「矩」は弓矢の矢の字を左に書いて、右に巨人軍の巨、「準」は準優勝の準、「繩」は沖繩の繩と、確かそんなふうの説明しましたかね。「矩」については『論語』の有名な「十有五にして学を志す」の最後に「七十にして心の欲するところに従いて、矩（のり）を越えず」とある、あの矩の字だとも言いました。覚えているでしょうか。それぞれの意味はこうです。「規」はコンパス、「矩」は定規、「準」は水平かどうかを測定する水準器、「繩」は墨繩のことで昔私は大工さんが実際にこれを使っているのを見えています。墨のついた糸を張り、木材に弾くとまっすぐな線ができます。それに沿ってのこぎりを当てるわけですね。この規矩準繩の最初と三番目の漢字を繋げてごらんください。わかりますね、そうです。私たちが「規準」と言っているのはこのことです。「基準」と書いても同じことです。自分の行動が間違っていないかを確かめる物差しを規矩準繩と言うのです。私は、この物差しは、世の中の移ろいに左右されてはいけないと思っています。また、教育とは自分の中に確固とした規矩準繩を作り上げることではないかとさえ思います。あの犯人は一体どんな教育を受けてきたのだろう。あの犯人の物差しはどこで歪んでしまったのだろう、そんなことも思いました。

Truth stands repetition.に従って何度でも言います。教育を受けた者はそれにふさわしい言動ができなくてはなりません。それを Educated Action と言います。私はこのことを信じています。終業式で伝えたかったことは、君がとるべき Educated Action は君が受けた教育の発露であり、自らがその教育を通して作り上げた規矩準繩に即したものであるはずだ、ということです。このことを意識して勉学に励みましょうね。